

令和4年度

教職課程

自己点検・評価報告書

令和6年3月

大阪千代田短期大学

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	12
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	17
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	18
V	現況基礎データ一覧	20

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

大学名：大阪千代田短期大学 幼児教育科

所在地：大阪府河内長野市小山田町 1685 番地

学生数及び教員数 学生数：170名 教員数：14名

(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 170名／学科全体 170名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）8名／学科全体 14名

2 特色

大阪千代田短期大学は、昭和40年の開学以来、「弘法大師の興学精神に則り、将来、教養あり且つ有為な社会人としての資質を養い、創造的な生活をなし得る人材を育成する高等教育を行う」という建学の精神を基に、教育理念である『人間教育』を目的とした学問的知識、実際の技量、人間性を培う教育を行っている。教育課程では「幼児教育・保育に関心を持ち、将来保育者になりたいという強い意志のある人」「子どもを取り巻く社会に関心を持ち、積極的に子どもや保護者に関わり、社会に貢献しようとする意欲を持つ人」など「入学者受け入れの方針」(アドミッションポリシー)に沿った学生の養成に携わっている。本学では幼稚園教諭二種免許状と合わせ保育士資格取得を核とするため、それに伴う教育実習、保育実習、演習科目での実践力の向上、それを裏付ける専門知識とともに、総合的な保育力を身につけた学生を養成し、「学位授与の方針」(ディプロマポリシー)に基づいて学位を授与している。これらの学生を幼稚園、保育所、認定こども園、その他の児童福祉施設へ多く輩出している。

本学は大阪南部に位置し、自然環境溢れる環境を活かした演習授業や附属幼稚園の園児との触れ合いを通じて実践的な取り組みを行っている。また、授業の多くは少人数制で行っており、ゼミ担任制も設けている。学生一人一人の課題と向き合い、成長を促し、その成長を喜び合える、そして社会で保育専門職として活躍できる質の高い保育者を養成している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

大阪千代田短期大学幼児教育科では、教職課程においては幼稚園教諭を養成している。建学の精神である「弘法大師の興学精神に則り、将来、教養あり且つ有為な社会人としての資質を養い、創造的な生活をなし得る人材を育成する高等教育を行う。」に基づき「教養あり且つ有為な社会人としての能力及び人格を具えた人間性豊かにして創造的な生活をなする人材の養成」を学則第1条で「目的」として定めている。また、本学では「学位授与の方針」（ディプロマポリシー）を踏まえた「教育課程の編成・実施方針」（カリキュラムポリシー）に基づき幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得を核として、実習、演習科目の充実を図り、授業を構成している。

本学では「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」等の観点から示されたその具体的資質能力を6つの「学位授与の方針」として立てているが、それらは本学公式 Web、「学生便覧」「講義要綱」等に示している。

これら教育課程教育の目的、目標は、教員間では年度当初（新年度準備）の学科会議及び教授会で確認している。また、学生には入学時オリエンテーション及び新2回生時オリエンテーションにおいて、教務委員会が中心となりカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の説明を行い周知している。教務委員会には教務学生課職員も所属しており、教職員が共通理解している。

〔優れた取組〕

本学は昭和40年の開学以来、これまで多くの保育者を輩出してきており、専任教員全員が実習指導者として、実習現場への訪問も含め、学生を指導している。そのため教育課程

について、学生とも共有、理解することができている。また、実習・キャリアサポート委員会（実習・キャリアサポート室職員も所属）が中心となって実習を行うことにより、教職員間でも状況が把握できている。学生の学内での様子だけでなく現場での状況も学科会議等で共有し、即対応できるのが本学の長所であると思われる。

[改善の方向性・課題]

これら教育活動の理解について、学科教員及び特定の委員会とは密に共有できているが、全体としてはさらに共有、理解する場が十分ではないと考える。そのことによる学生理解、指導にもつながるため、より一層の努力が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1： 令和4年度 『学生便覧』
- ・資料1-1-2： 令和4年度『講義要綱』（シラバス）
- ・資料1-1-3： 本学公式Web>情報公開 <https://www.chiyoda.ac.jp/disclosure/>
- ・資料1-1-4： 令和4年度 学科会議議事録
- ・資料1-1-5： 令和4年度 教授会議議事録

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

各科目担当教員は、シラバスに示した成績評価基準に基づき、定期試験（レポート試験を含む）に加えて、授業への参画や発表の状況、ワークシート・小レポート・課題などの提出物、小テストなども十分に加味して、学習成果の状況の評価し、適切に把握している。

全教員（非常勤講師も含む）が半期ごとに学生による授業評価（授業アンケート）を受けており、その集計結果と学生からのコメントをその後の授業改善に役立てている。また、半期ごとに教職員が授業を見学することを推奨する FD 週間を設け、意見交換を行い、授業改善に繋げている。

授業内容について、複数教員で担当する授業や関連性・発展性のある授業においては、授業担当者間で打ち合わせが実施されている。また、非常勤講師には新年度開始前に非常勤講師配付資料を送付の上、授業内容や授業進行等について打ち合わせの必要な場合は、別途連絡を行い確認や調整を行っている。

各科目において、学生個人の学習成果から学科の教育目的や目標の達成度を把握し、評価している。

学生に対して履修から卒業まで、ゼミ担当教員が主担当として指導している。履修に関しては、新年度オリエンテーションやゼミの時間で指導を行い、履修登録もゼミ担当教員が必ず確認している。

教職員は、各自の業務や教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。学内で導入している「G Suite for Education」の機能の一部を活用し、シラバスの作成、フォーム機能を用いた授業アンケートなどを行っている。また、授業をパワーポイントで展開する教員、スマートフォンでも回答可能なファイル機能を用いて学生に授業中課題に取り組ませる教員など、各自の業務や学生支援に実際にコンピュータを活用しながら、その技術向上を図っている。

コンピュータ室 2 教室にはそれぞれ 36 台のパソコンを設置している。コンピュータ室

は授業以外の時間は常時開放している。学生は実習の報告書をワードで作成し、実習先のウェブサイト調べ、実習の事前学習などに役立てている。その他、学内 LAN の活用方法として、実習報告書のテンプレートをファイルサーバーに置き、学生はそれをコピーして各自報告書を作成している。学内設備が更新された際には、教職員は講習会等を通じて情報技術の習得・向上に努めている。また、情報処理教育担当専任教員と非常勤講師は日常的に学生の情報技術の到達度などについて情報交換を行い、学生の学習支援に役立てている。

新型コロナウイルス感染拡大で対面授業が中止になった際、学内研修会を実施し、Google Classroom、Google Meet、プレゼンテーションソフトに録音する方法等、オンライン授業に向けて、コンピュータ利用技能を向上させ、それ以後、このようなコンピュータ利用技能を教職員が活用している。

また、各学生の入学時からの成績と単位取得状況、就職活動状況等を「学生カルテ」、実習の評価及び実習施設からのコメント等を「実習カルテ」として電子的に管理し教員間で共有している。これらのデータは学科会議で分析し、学科会議や教授会で情報を共有し、学習支援の方策について点検し、活用している。

〔優れた取組〕

半期ごとに授業を見学することを推奨する FD 週間を設け、教員だけでなく、職員にも見学を推奨し、見学した者は意見、感想を教務委員会に提出し、教務委員会はその意見、感想を授業担当者に伝えるとともに、内容について教務委員会で検討し、授業担当者と意見交換し、学科会議でも検討している。

また、河内長野市子ども子育て課、私立幼稚園連絡協議会、民間保育園連絡協議会との協議を重ね、河内長野市内就学前施設と本学との懇談会を実施した。懇談会では、施設と養成校がそれぞれ抱えている課題の共有を図り、その上で、実習の在り方、実習生やインターンシップの受け入れ、人材育成について、意見交換、検討した。

〔改善の方向性・課題〕

科目内容の繋がり、連携、重複等について、より意識し、検討すべきではないかという意見があり、科目内容の繋がり、連携、重複等について意見交換できる機会を設けることを検討している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1 : 令和 4 年度『講義要綱』(シラバス)
- ・資料 1-2-2 : 令和 4 年度『学生便覧』
- ・資料 1-2-3 : 授業アンケート及び結果
- ・資料 1-2-4 : 令和 4 年度 教務委員会議事録
- ・資料 1-2-5 : 授業見学報告用紙
- ・資料 1-2-6 : 非常勤講師配付資料
- ・資料 1-2-7 : 実習・キャリアサポート委員会議事録
- ・資料 1-2-8 : 学生カルテ
- ・資料 1-2-9 : 実習カルテ
- ・資料 1-2-10 : 令和 4 年度 学科会議議事録
- ・資料 1-2-11 : 令和 4 年度 教授会議事録

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」には、本学が求める人物像が分かりやすく示され、学生募集要項に掲載するとともに、本学公式 Web に掲載し、学内外に公表している。

入学者の選考については、教授会において審議・決定を行っている。また、学生募集に関する広報活動の企画、連絡調整及び事業実施体制等については、入学支援委員会が審議・検討を行い、アドミッション・オフィスが学生募集及び学生募集に関する広報活動を企画・実施している。

アドミッション・オフィスが実施している主な広報活動は、①オープンキャンパス・進学相談会の実施（令和4年度は計16回実施）、②高等学校訪問（進学ガイダンス、進路指導担当者への報告・説明）、③ウェブサイトによる広報、④資料請求者への対応等で入学者を確保している。

〔優れた取組〕

保育者に必要なピアノの技術力を高めるために、入学前に自宅や高校の周辺で無料のピアノレッスンが受講できるように、近畿圏内の約60か所のピアノ教室と提携している。また、合格後は、入学前課題として、入学までに学んでほしいレベルまでのピアノの楽譜を送付し、入学後の実習に備えている。

〔改善の方向性・課題〕

本学が位置する南河内地域の高校卒業生徒数が急激に減少しており、和歌山・奈良県等の近接地域や遠隔地からの入学者を確保する必要がある。そのため、令和4年度より、和

歌山県田辺市で出張オープンキャンパスを実施した。また、本学への入学者がいる遠隔地の学校を特別連携校に指定し、家賃補助制度を充実させた。今後も学生確保のために大阪府外の高校への積極的な広報活動を行う必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1： 令和4年度 『学生便覧』
- ・資料2-1-2： 令和3年度入学 『大学案内・学生募集要項』
- ・資料2-1-3： 令和4年度入学 『大学案内・学生募集要項』
- ・資料2-1-4： 本学公式Web>情報公開 <https://www.chiyoda.ac.jp/disclosure/>
- ・資料2-1-5： オープンキャンパス リーフレット
- ・資料2-1-6： 無料ピアノ教室 リーフレット
- ・資料2-1-7： 一人暮らし リーフレット

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

学生の就職・進学を支援するための組織として、実習・キャリアサポート委員会を設けている。委員会は2名の教員と、実習・キャリアサポート室の職員2名で構成され、全学的な立場で実習や就職活動の現状を報告し、課題などについて検討している。委員会の報告・検討内容は学科会議に報告、議論される。本学は幼児教育・保育者養成校であり、教育実習と保育実習が学生の進路選択に大きな影響を与える。その実習とキャリア支援を同じ委員会で行うことによって、実習での学生の取り組みを詳細に把握しながらキャリア支援を行えるようになってきた。さらに幼稚園・保育園・認定こども園・福祉施設への就職については、学生の希望や特性に見合った職場を紹介・斡旋できるようになった。毎年就職希望者に対して9割以上の学生が資格を生かした仕事に就いている。

就職支援のための施設としては実習・キャリアサポート室と実習・就職活動準備室を置いている。実習・キャリアサポート室は2名の職員(内1名はキャリアコンサルタント有資格者)が常駐し、学生のキャリア支援と実習関係の実務を行っている。実習・キャリアサポート室は本館7階ゼミ教員の研究室と同じ階に整備され、教職員が迅速に学生の実習やキャリア支援について相談、連携がとれる体制にしている。

本館6階には「実習・就職活動準備室」があり、幼稚園・保育園・認定こども園・福祉施設・企業等からの求人票や四年制大学編入関係の情報、受験報告書などの資料を備え付けており、学生が自由に閲覧できるようにしている。準備室には本学指定の履歴書や練習用の下書用紙、郵送のための封筒や便せんなども用意し、学生が落ち着いた状況で就職活動の準備に取り組めるようにしている。

〔優れた取組〕

平成28年4月から実習実務とキャリア支援を同じ部屋で行うようになり、学生は1回生から実習関係で頻繁に実習・キャリアサポート室を訪れるようになった。その結果、

個々の学生の状況を早い時期から把握し、キャリア支援ができるようになってきた。

学生の卒業後の動向を把握することの重要性に鑑み、本学では平成 17 年度から卒業生の就職先を訪問し、卒業生の様子を伺いながら、現場の求める人材像やスキルなどについて聞き取りを行ってきた。就職先からの情報は、学生の社会的、職業的自立を支援するための授業（キャリアデザインⅠ・Ⅱ）などで活用している。また、令和元年度からは卒業生の就職先からの意見を教育の改善・向上に反映させることや就職先との関係を密にし、卒業生の定着支援を行うことを目的とした就職先アンケートを実施してきた。質問項目は本学学生の採用の決め手になったこと、本学卒業生の特徴などの簡単なものであるが、アンケートの回答を見ると、本学卒業生の「真面目さ・努力する姿勢・丁寧な仕事への取組み姿勢」の回答数が多い。そのことは少人数教育の中で、学生の学業や生活面での一つ一つの言動や取組み姿勢について、真面目に努力を重ねることや丁寧な対応の大切さを常に伝えていることの表れである。

〔改善の方向性・課題〕

就職試験の早期化や学生の社会に参加すること、働くことに対する不安感や多様な考え方により、就職支援は年々難しくなっている。そのために本学では1回生時から就職フェアに学生を引率する取り組みを始めた。フェアで様々な幼稚園・保育園・認定こども園と出会い、ボランティアやアルバイトの機会を得て、より実践的な学びができるようにすることが目的である。1回生終了時には、学生、実習・キャリアサポート委員会の教員、実習・キャリアサポート室職員による進路面談も実施している。面談では個々学生の進路に関する希望や悩みを聞きながら就職活動の準備を行っている。

また、2年間で資格が取得できずに科目等履修生として授業を受講する卒業生が若干名いる。令和4年度は、それらの卒業生のアルバイト雇用での就職支援を行った。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2 - 2 - 1 : 進路決定状況
- ・資料 2 - 2 - 2 : 就職・採用に関するアンケート
- ・資料 2 - 2 - 3 : 令和 4 年度 実習・キャリアサポート委員会議事録
- ・資料 2 - 2 - 4 : 就職先訪問記録

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学の教育課程は、建学の精神や教育理念・目標及び卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に対応して編成している。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下の通りである。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

幼児教育科では、質の高い保育士・幼稚園教諭・保育教諭を養成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施している。

- 1) 広く人格形成に資する一般教養科目を設置している。
- 2) 学習効果を高め学生一人ひとりの成長を図るために、少人数による授業の実施に努めている。
- 3) 知識活用力、論理的思考力、課題探究・解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会人・地域の一員として必要不可欠な能力を育成するために、参加型・双方向型の授業（ゼミナール等）を実施している。
- 4) 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を認定するための専門的知識・技術及び倫理観を体系的に身につけるために、資格に関する専門科目を設置している。
- 5) 高い倫理性に基づいた実践力を養うために、実習科目を重視し、丁寧な個別指導を実施している。
- 6) 保育学・幼児教育学と隣接した分野の学びを提供し、関連資格の取得を支援するために、本学の地域教育・福祉総合センターとの連携体制を作っている。

教育課程は、短期大学設置基準第5条、6条にある教育課程の編成方針に則り、体系的に編成している。本学の教育目的でもある保育士・幼稚園教諭・保育教諭の養成のために、その資格・免許取得に対応した教育課程を編成し、専門的知識・技術に加えて、高い倫理性を備えた教育・福祉専門職となれるよう、一般教養科目とともに専門科目で知識、技術が効果的に学べるよう授業科目を編成し、さらにそれらを現場で活用できる実践力を習得できる授業科目を設定している。

2年間で保育士・幼稚園教諭の資格・免許の取得を目指すため、1年間で履修する単位数が多くなる傾向がある。令和3年度入学生から年間において履修できる単位数の上限を定めた。

成績評価は、科目ごとに評価基準をシラバスに明記し、その基準に基づいて行っている。また、実技についても評価基準を明示することで、教育の質保証に向けて適切に成績評価を行えるよう工夫している。このように短期大学設置基準に則り判定している。

シラバスは、全科目担当教員に作成を依頼する際、ウェブサイト上で「シラバス記入例」を示し、目的と概要、到達目標、履修のルール、授業計画（時間数と授業内容）、評価基準・評価方法、予習・復習、教科書や参考図書、オフィスアワーを明記している。各教員から提出されたシラバス原稿は教務委員会及び学科会議において、各項目が適切に記載されているかを確認している。

「建学の精神」を踏まえ、学生の実情や時代の要請に合わせ、幼児教育科において教育課程を毎年度検討・見直しを教務委員会、学科会議、教授会等で行っている。

〔優れた取組〕

職業教育の効果を測定・評価、改善する取り組みについては実習訪問・巡回や就職先訪問の際に聴取した内容を「実習カルテ」や「就職先訪問記録」に記録している。その内容を元に学科会議や実習・キャリアサポート委員会で議論するなど、より良い職業教育に向けて取り組んでいる。

〔改善の方向性・課題〕

学生の学修の動機付けになるよう学修成果を可視化し、教員も正確に学生の学修成果を把握し、授業改善に繋げること、また、PDCA サイクルにより、教職課程カリキュラムの編成・実施について見直し、改善していくことが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料3-1-1： 令和4年度 『学生便覧』
- ・資料3-1-2： 令和4年度 『講義要綱』（シラバス）
- ・資料3-1-3： 大阪千代田短期大学 学生の履修登録単位数に上限を定める
制度（CAP 制）に関する規程
- ・資料3-1-4： シラバス記入例
- ・資料3-1-5： 実習カルテ
- ・資料3-1-6： 就職先訪問記録
- ・資料3-1-7： 令和4年度 学科会議議事録
- ・資料3-1-8： 令和4年度 実習・キャリアサポート委員会議事録
- ・資料3-1-9： 令和4年度 教務委員会議事録
- ・資料3-1-10： 就職・採用に関するアンケート
- ・資料3-1-11： 令和4年度 教授会議事録

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携**〔現状〕**

本学では学生の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てることや学生が様々な教育活動を通して「生きる力」を身に付け、しっかりとした職業観、勤労観を身に付けられるように、次のとおり職業教育の実施体制をとっている。

「保育実習」や「教育実習」は、学校での学びを体験的に理解するとともに、「先生としての自覚」「社会人としての自覚」を芽生えさせる貴重な経験となっている。実習では保育者としての能力を求められると同時に社会人としての振る舞いや挨拶、報告、連絡、相談、教職員とのコミュニケーションなどの社会性が要求される。そのことは学生に負荷がかかることにもなるが、「それらをどのようにして乗り越えるか」常に試されることになる。自分が働きたい、働くかもしれない場に身を置くことで、内発的な動機が芽生えるきっかけとなっている。

キャリア支援科目の「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」は、入学から卒業までの2年間、社会人としての基本的な素養、職業や労働に関する情報・知識を身に付け、自らの進路を主体的に選択する力を育てることを目的としている。世の中の様々な職業や働き方を理解するために、多様な分野で活躍する社会人・職業人の動画メッセージを紹介し、講話、身近な人への職業インタビューなどを行っている。

また、河内長野市子ども子育て課、私立幼稚園連絡協議会、民間保育園連絡協議会との協議を重ね、令和4年12月に「河内長野市内就学前施設と本学との懇談会」を実施した。懇談会では、施設と養成校がそれぞれ抱えている課題の共有を図り、その上で、実習の在り方、実習生やインターンシップの受け入れ、人材育成について意見の交換をした。

〔優れた取組〕

教育現場の実態や最新の事情に関わる理解促進と社会からの要請にねざした学びを提

供するために、平成17年度から卒業生の就職先訪問を行っている。就職先訪問では卒業生の状況を伺いながら、現場の求める人材像やスキルなどについて聞き取りをしている。訪問時には卒業生や園長・施設長に「学生へのメッセージ」動画の撮影も依頼し、授業で活用している。

また、令和元年度からは卒業生の就職先からの意見を教育の改善・向上に反映させること等を目的とした就職先アンケートを実施している。質問項目は本学学生の採用の決め手になったこと、本学卒業生の特徴などの簡単なものであるが、アンケートの回答や自由記述を見ると、本学卒業生の「人間力」について評価や「丁寧に育てていきたい」と採用側が思う人材を輩出していることがわかる。

このような取り組みを通して、教育・保育現場の先生方と養成校が連携して、保育者を育てるという関係が築けてきた。

〔改善の方向性・課題〕

令和4年12月に実施した「懇談会」の参加者は市内24の就学前施設のうち9園であった。今後はさらに参加園数を増やしていくことや日常的な相談や連携を図ることなどが課題となる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：就職・採用に関するアンケート
- ・資料3-2-2：実習・キャリア懇談会資料
- ・資料3-2-3：就職先訪問記録
- ・資料3-2-4：就職先園長及び卒業生の動画

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

「基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を踏まえた「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づき幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得を核として、実習、演習科目の充実を図り、授業を構成し、それらは本学公式 Web、「学生便覧」「講義要綱」等に示している。教育課程教育の目的、目標は、教員間では年度当初の学科会議及び教授会で確認している。また、学生には入学時オリエンテーション及び新 2 回生時オリエンテーションにおいて、教務委員会が中心となり、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の説明とともに周知している。教務委員会には教務学生課職員も所属し、教職員ともに共通理解している。

授業アンケート、また教職員が授業を見学する FD 週間を設け、意見交換を行い、授業改善に繋げている。

教職員は、各自の業務、教育課程及び学生支援を充実させるために、「G Suite for Education」「学生カルテ」「実習カルテ」等で情報を電子的に管理し教員間で共有している。これらのデータは学科会議で分析し、学科会議や教授会で情報を共有し、活用している。

「基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援」においては、「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」で、本学が求める人物像を示し、学生募集要項、本学公式 Web に掲載し、学内外に公表している。

教職員で構成され、学生の就職・進学と実習を支援する実習・キャリアサポート委員会は、実習や就職活動の現状、課題などについて協議し、学科会議に報告し検討している。本学は幼児教育・保育者養成校であり、教育・保育実習が学生の進路選択に大きな影響を与える為、実習とキャリア支援を同じ委員会で行うことによって、実習での学生の取り組みを詳細に把握しながらキャリア支援を行っている。

「基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム」においては、本学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、建学の精神や教育理念・目標及び卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に対応し、短期大学設置基準第 5 条、6 条にある教

育課程の編成方針に則り、体系的に編成している。本学の教育目的でもある保育士・幼稚園教諭・保育教諭の養成のために対応した教育課程を編成し、専門的知識・技術に加えて、高い倫理性を備えた教育・福祉専門職となれるよう、一般教養科目とともに専門科目で知識、技術が効果的に学べるよう授業科目を編成し、さらにそれらを現場で活用できる実践力を習得できる授業科目を設定している。

教育現場の実態や最新の事情に関わる理解促進と社会からの要請にねざした学びを提供するために、平成 17 年度から卒業生の就職先訪問を行っている。就職先訪問では卒業生の状況を伺いながら、現場の求める人材像やスキルなどについて聞き取りをしている。また、令和元年度からは卒業生の就職先からの意見を教育の改善・向上に反映させることを目的とした就職先アンケートを実施している。質問項目は本学学生の採用の決め手になったこと、本学卒業生の特徴などの簡単なものである。アンケートの回答や自由記述を見ると、本学卒業生の「人間力」について評価や「丁寧に育てていきたい」と採用側が求める人材を輩出していることがわかる。このような取り組みを通して、教育・保育現場の先生方と養成校が連携して保育者を育てるという関係が築けている。

今後の課題としては、学生の状況をより迅速に把握し、教職員で共有し、学生の育成に活かせるシステムの構築、学修の動機付けになるよう学修成果を可視化し、教員も正確に学生の学修成果を把握し、授業改善に繋げること、また、PDCA サイクルにより教職課程カリキュラムについての共通理解、教職課程の編成・実施、協働的な取り組み、学生の確保・育成・キャリア支援について見直し、改善していくことが課題である。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

令和 5 年 9 月に、自己点検・評価委員会を開催し、「教職課程自己点検・評価報告書」の内容・役割分担・作業日程を検討、確認した。委員会での分担となっている箇所については、各委員長のもと各委員会で検討した。令和 5 年 10 月の教務委員会、実習・キャリアサポート委員会、入学支援委員会で担当の内容・スケジュール確認を行った。令和 5 年 11 月の教務委員会で「基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り

組み」の「基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫」と「基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム」の「基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施」について、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」以上 3 つのポリシーと照らし合わせて検討するとともに、「教育課程カリキュラム編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を協議し確認した。また、PDCA サイクルの観点からも協議し確認した。11 月の実習・キャリアサポート委員会で、「基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援」の「基準項目 2-2 教職へのキャリア支援」と「基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム」の「基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携」について協議し、3 つのポリシーと照らし合わせて検討した。11 月の入学支援委員会で、「基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援」の「基準項目 2-1 就職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成」について、3 つのポリシーと照らし合わせて協議した。

令和 5 年 12 月の教務委員会で、「基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫」と「基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施」の「優れた取組」「改善の方向性・課題」について検討した。12 月の実習・キャリアサポート委員会で、「基準項目 2-2 教職へのキャリア支援」と「基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携」の「優れた取組」「改善の方向性・課題」について検討した。12 月の入学支援委員会で、「基準項目 2-1 就職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成」の「優れた取組」「改善の方向性・課題」について検討した。

各担当、各委員会から提出されたものを、ALO 兼自己点検・評価委員長が令和 5 年 12 月末に集約し、検討・加筆・修正を行い、令和 6 年 2 月に自己点検・評価委員会で検討し、加筆・修正した。令和 6 年 3 月の教務委員会で、「令和 4 年度 教職課程自己点検・評価報告書」の全体を検討・確認し、3 月の教授会で「令和 4 年度 教職課程自己点検・評価報告書」の全体を検討・確認し、本学 HP に掲載した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 千代田学園					
大学・学部名 大阪千代田短期大学					
学科・コース名（必要な場合） 幼児教育科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					89 (91 過年度生含)
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					76
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					72 (福祉施設含) 67 (福祉施設含まない)
④のうち、正規採用者数					63 (福祉施設含) 60 (福祉施設含まない)
④のうち、臨時的任用者数					
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	5	5	4		14
相談員・支援員など専門職員数					